

とうほく自動車関連産業振興ビジョン ～とうほく自動車関連産業の持続的成長へ～

※ビジョン期間：2022～2025 年度

現状

【国内外の状況】

- 「カーボンニュートラル」の実現に向け電動化が加速し、異業種を巻き込み「CASE」、「Ma a S」、「水素」等の技術開発や、自動車産業の「DX」が急速に進んでいる。

【東北の状況】

- トヨタ国内第3の生産拠点としての位置づけの下、大手部品メーカーの集積や地場企業の参入により、完成車の一貫生産体制及び重要部品の生産基盤が充実しつつある。

輸送用機器出荷額は10年で9千億円増！  
東北はコンパクト車の生産拠点として成熟！

【産業集積の状況】

現状	○産業集積の進展により、サプライチェーンの構築が進んでいる ○感染症や世界情勢等の環境変化により部品供給が不安定
課題	○地場企業のQCD・生産性・提案力のさらなる向上 ○グローバル展開を見据えた技術・生産体制の強化 ○設計・開発等を行うことができる企業の集積 ○環境変化に対応し、安定した部品供給網の更なる強化

【研究開発の状況】

現状	○企業が求める、実用化に繋がる研究が少ない ○次世代自動車の企画・開発等を意識した動きが鈍い
課題	○電動化・CN対応・ソフトウェアなど実用化を目指す研究の掘り起こし ○企業・大学・公設試連携のさらなる推進

【人材育成・確保の状況】

現状	○人口減少等による働き手の減少 ○技能人材に加え技術人材ニーズの増加
課題	○現在～未来の自動車関連産業を支える人材の確保 ○三次元設計・開発・デジタル技術者など高度技術ものづくり人材の育成による高付加価値化

方向性

【目指す姿】

<MADE BY TOHOKUを日本へ、世界へ>  
「とうほく」は、コンパクトカーをはじめとする環境対応車など、世界に発信できる自動車の生産・開発拠点の形成を目指し、日本のものづくりの一翼を担います。

強固な広域連携で企業集積をさらに強化！  
グローバル展開や次世代技術開発等を見据えた  
広域クラスター形成、高付加価値化に取り組む！  
⇒とうほくの自動車関連産業の持続的成長へ！

【生産拠点形成に向けて】

- 進出企業と地場企業の協力の下、部品生産から完成車の組立までを域内で完結し、世界に通用する高い生産性で、競争力のあるクルマづくりを行う地域
- 地域資源を活用した再生可能エネルギー導入や水素活用等による持続可能な生産活動を行う地域

【研究開発拠点形成に向けて】

- EVやFCVなどの環境対応車や自動運転車等の次世代を担う自動車の技術開発や構成部品開発及び生産技術開発について、広域連携の下で世界に通じる研究開発を行う地域

【産業を支える人材の育成・確保に向けて】

- 東北の自動車産業やものづくりを支える優秀な人材を継続的に企業へ輩出する地域

目標と戦略

【目標】（目標年次 2025 年度）

- 輸送用機器の出荷額 2.4 兆円を目指す  
（現状 2.2 兆円）

輸送用機器出荷額を次の4年で2千億円増！  
生産技術力と開発提案力を高め、競争力を強化！

戦略Ⅰ 幅広い分野の企業集積

- 関連企業の進出促進
- 地場企業の参入促進
- 県境を越えた企業間交流・連携の促進



戦略Ⅱ 競争力のある生産拠点

- 設計開発～生産技術～生産まで一貫通貫のものづくり体制の強化
- 提案力の強化
- カーボンニュートラルの推進



戦略Ⅲ 次世代技術の開発拠点

- 次世代自動車の生産を支える技術の開発
- 研究開発の実用化
- 公設試の広域連携強化
- 域内企業との連携強化



戦略Ⅳ 人材の育成・供給拠点

- 企業ニーズに応じた人材の育成・確保・定着
- 東北全体での安定した人材確保
- 就学段階からの高度ものづくり人材育成
- 多様な人材が活躍できる環境の整備

